

第 1 回東青地区統合校開設準備委員会における主な意見

1 東青地区統合校の目指す人財像・学校像について

【各委員からの意見】

- 地域とのコミュニケーションは生徒の重要な学びの機会であり、生きる力の育成につながる。部活動や地域との交流など、様々な意欲を持つ生徒が入学したいと思うようなカリキュラムや環境を整えられるとよい。
- 地域密着型の教育を行う学校であってほしい。
- 浪岡地区にサテライトの機能や施設を配置するなど、浪岡地区と統合校に通う生徒とのつながりを維持していくことが大切である。
- 浪岡地区の小学生が参加するイベントにボランティアとして高校生や中学生が多数集まり、地域と子どもたちとのつながりが続いている。統合校の生徒にもボランティアとして参加してもらって、地域の活性化につなげてほしい。
- 学校運営協議会や生徒の活動範囲が広がるため、教育活動にとっても学校経営方針としても、地域とのつながりは必要である。
- 学校が抱える課題を学校だけで解決することは難しいので、統合校でも学校運営協議会を取り入れてほしい。
- 交通費支援やバス運行など、生徒が両地区で活動しやすい環境づくりも大事である。
- 多様な主体と関わることで関係性が広がる高校、多様な進路希望に対応できる高校であってほしい。
- 多様な部活動が設置されれば、統合校に進学する中学生にとって選択肢が増えるというメリットが考えられる。
- 中学校と高校の連携を強めることが大切である。
- 統合校の卒業生であることを誇れる高校であるとよい。
- 両校の卒業生が母校だと感じられる学校にしてもらいたい。社会において出身校のつながりから応援されることが、生徒のメリットにもなり、同窓生の生きる糧にもなる。

(意見等記入票における意見)

- 両校とも長い伝統と地域に根差した実績、部活動やボランティア活動など、共通した魅力があるため、統合校も中学生や地域の方々にとって魅力ある学校であってほしい。
- 国立大学にも進学できるだけの学業と運動部活動が両立できるよう望む。
- 子どもが志望校を選ぶポイントの1つは学校の特色であるため、「この学校はこれに力を入れている」と明確に打ち出した方がよい。
- 両校の特色を引き継ぐのがよい。

【開設準備委員会としての意見（まとめ）】

- 第 2 期実施計画で統合校が目指す姿として掲げる「生徒の個性や能力を伸ばし、大学等への進学や就職等、生徒一人一人の幅広い進路志望の実現に寄与する高校」、「地域と連携・協働した探究的な学びを通して、生徒の地域社会の発展に貢献する意識を醸成する高校」を基本としつつ、開設準備委員会の意見を踏まえ、県教育委員会及び開設準備室において検討を進めてもらいたい。

2 校名案の決定方法について

【第1回開設準備委員会における各委員からの意見】

[校名案の検討方法]

- 公募により集まった校名案候補を開設準備委員会で何点かに絞り、それをさらに生徒に照会するという方法がよい。
- 先行事例が全てB案なのであればB案でよい。ただ、開設準備委員会で協議するための案を市内の中学生から出してもらおう方法も考えられる。

[公募の対象]

- 青森市内の全中学生に公募をかけるのがよい。そこから興味を持ち、統合校を受検する意欲が湧けばよい。
- 両校の卒業生も多く、それぞれの思いもあることから、大人からも募集するべき。
- 同窓生と東青地区の中学生に募集するのがよい。
- 同窓生からの募集には経費や時間がかかることを考えると、あまり年齢が高い世代にまで募集するのは難しい。
- 浪岡高校の同窓会は、役員からの意見を聞くことができればよい。
- 両校の在校生から募集するのがよい。
- 学校名なので最終的には常識的な名前になると思われるため、多くの公募は必要なく、同窓生、在校生、中学生の意見で十分である。

[公募や周知の方法]

- インターネットの利用に慣れている生徒が多いので、webのフォームで募集すれば対象者を絞れるし、属性の選択により安易な考えでの応募の抑止につながる。
- 中学校長会や青森市教育委員会の協力が得られるのであれば、中学生に案を募るということも考えられる。
- 東青地区の中学生への公募については、校長会で検討してもらうことが考えられる。
- 本委員会について新聞で紹介してもらい、生徒にはアンケートで案を募り、同窓生には応募フォームの情報を載せてもらうというのも考えられる。
- 教育委員会のホームページ等で募集するのであれば、同窓生の中でも興味がある方は応募すると思うので十分である。
- 同窓会では、総会で代表して意見をまとめることも可能である。
- 全戸に配布される県教育委員会の広報紙に、公募について掲載すればよい。
- 校名案の公募についてSNSで発信するのがよい。
- 一番広く県民に届くと期待されるのは、県が管理する媒体や広報紙だという話はあるが、技術的に可能かどうかは検討が必要である。
- 青森西高校や浪岡高校に関係のある地域の方へと分かるようにできないものか。

[その他]

- 公募の場合、多くの応募があると思われる。これを数の論理で決めるのではなく、協議で決める必要があることから、1回の会議では難しいと感じる。
- 中学生や高校生、同窓生は、学校や同窓会など、それぞれの組織の中で責任を持って応募してもらえと思うが、一般の方については様々な案の応募があると思う。
- 興味がある方は、見れば必ず行動する。きちんと考える人はおかしな校名案を出して

こないと思われ、候補にならないものはすぐ判断できると思う。

- 両校とも思いがあるので、校名案の検討には少し時間をかけたい。

【第1回開設準備委員会におけるまとめ】

- 校名案の決定方法について、各委員の意見を意見等記入票に記載して事務局に提出することとし、その意見も踏まえて第2回開設準備委員会において改めて協議することとした。

【意見等記入票における意見】

- B案とし、各委員が所属する団体の意見を集約（※）して3～5案提案し、計20案程度の校名案候補について第3回開設準備委員会における意見交換により絞り込む。
 - ※ 例えば、中学校長会は市内中学校、両校は在校生、同窓会は同窓会員（役員）から案や意見を集約する。
- (1) 以下の①～④に対して、校名案を公募する。
 - ① 東青地区の中学生（青森市中学校長会の協力による）
 - ② 青森西高校・浪岡高校の在校生（両校の協力による）
 - ③ 同窓生（両校同窓会の協力による）
 - ④ その他（県教育委員会ホームページ等による公募）
- (2) ①・④は事務局が、②・③は各校が集計し、それらを合わせて事務局が最終的に集計する。
- (3) 第3回開設準備委員会において校名案候補を10案程度に絞り込む。
- (4) 絞り込んだ校名案候補について、両校の在校生に対し意見照会を行う。
- (5) 意見照会の結果を踏まえ、第4回開設準備委員会で校名案を絞り込む。
- 以下から公募する。
 - ・青森西高校及び浪岡高校の在校生
 - ・東青地区の中学生（青森市教育委員会の承諾が不可欠か。）
 - ・青森西高校及び浪岡高校の同窓生等（同窓会のみとするか、その他の関係団体も対象とするか。）
- A案とするが、面白半分に応募する方もいると思うので注意が必要である。
- 公立高校の校名には自由度が無い気がするが、公募するとしても東青地区の中学生と両校の在校生への意見募集、同窓生に向けた学校HPへの掲載程度でよいと思う。
- 委員が所属団体や関係者からの意見を集約（※）し、5案程度に絞り込んだ上で開設準備委員会に提案して協議するのがよい。
 - ※ 両校が在校生、同窓会が同窓生、後援会が後援団体、PTAが保護者、中学校校長会が中学生から意見を集約。
- 開設準備委員会において絞られた校名案候補について広く県民に意見照会するのであれば、候補案の検討段階で広く意見を聞く必要は無いと考える。

[その他]

- 馴染んでいる「青森西」でよいのではないかと。
- 地域のつながりを考えてほしい。

3 制服の方向性について

【各委員からの意見】

- 学校の雰囲気には制服も大事な要素であるので、新たな制服のほうがよい。
- スカートだけでなく、スラックスを選択できる制服とし、スラックスに合うデザインがよい。
- 新制服を検討するには検討期間が短い。当面は青森西高校の制服を使用し、数年後に生徒の意見を反映させながらゆっくり検討してもよいと思うが、非常に悩んでいる。ただ、新制服が生徒募集に当たって1つの起爆剤になるということだったので、新制服を作成する方向で動くものの、学校側の業務が増えることが予想される。そのため、両校の教頭や制服を担当する生徒指導部の主任を含め、早い段階で検討を進められる体制づくりをお願いしたい。
- デザインの検討が非常に難しい。業者はきちんと考えられたデザインを用意してくれるので、それを選んだほうがよい。また、生徒に意見を求めるにしても、全校生徒など、ある程度の数の生徒、場合によっては同窓生にも聞いたほうがよい。
- 業者の提案は、時代に合ったデザインや機能性になっているはずである。業者のデザインを修正するのは難しいと思うが、色などは在校生の意見を聞き取っておいたほうがよい。また、価格も含めて検討していただきたい。

(意見等記入票における意見)

- いくつかの業者に案を示してもらい、両校の関係者によって絞り込み、最終的に両校の在校生の投票で決定するのがよい。
- 第2回開設準備委員会において、新たなスケジュール等を示してもらいたい。なお、できるだけ生徒等の意見を取り込める工夫をするようお願いしたい。
- ネクタイやリボン、体操着（靴を含む）についてもスケジュール等を示してもらいたい。
- 全く新しいデザインを望む。女子はネクタイからリボンに変更し、チェックのスカートとするのがよい。東京の学生を参考にしてはどうか。
- 第1回開設準備委員会において、新しい制服を検討するため、両校教職員で組織する「作業部会」が設置されることとなったことから、進捗を開設準備委員会で報告しながら検討を進めたい。また、ネクタイやリボン、体操着（靴を含む）についても、校章やスクールカラーが変わることを踏まえ、制服と合わせて作業部会で準備を進めたい。

【開設準備委員会としての意見（まとめ）】

- 新たな制服を作成することとし、統合対象校の教職員等からなる作業部会において、検討及び関係業務を進めてもらいたい。

4 その他

【各委員からの意見】

- 大人同士だけでなく、生徒と直接話をするこゝで、実のある協議となると考えるため、開設準備委員会設置期間中に生徒の意見を聞く機会が必要ではないか。
- 生徒は言いたいことを言うが、その中には柔軟な発想もあるので、生徒の意見を聞く場面が必要である。
- 両校の文化祭をそれぞれの学校関係者が訪問し合うなど、両校の連携は今年度からでも始められる。
- 今後、様々な地域で活動していくには、PTAの協力が一層重要になる。PTAとしても、両校で交流しながら協力体制をつくっていくことが、生徒の活動の選択肢を広げることにつながる。
- 開設準備委員会の範囲だけで物事を進めていくのではなく、この開設準備委員会で協議している内容を県の媒体を使って周知できないか。また、本委員会について分かりやすくまとめた周知資料を事務局がつくるという考えはないか。

(意見等記入票における意見)

- 前田委員長のもと、これまでに無い魅力的な高校が設置されることを願っている。
- 統合する両校の関係者が初めて一堂に会して顔を合わせて意見交換を行ったが、前向きな意見が交わされ、これから先に期待が持てる熟議となったことに感謝している。
- 異論が挟めない雰囲気となることがあったため、もう少し全員が意見を言いやすい雰囲気の会議であるとよい。